

科目名・単位数	美術 I	(2)単位	学習レベル	基礎
学習目標 ① 美術の創造的な諸活動を通して、美的体験を豊かにし美術を愛好する心情を育てる。 ② 感性を高め、美術文化についての理解を深め、個性豊かな美術の能力を高める。 ③ よさや美しさ、創造的な知識など豊かに感受できる感性を高め、美やよりよい精神を求めて生きる態度を養う。				
学期	学習内容	学習のねらい	提出物	
前期 (4月～9月)	4月 オリエンテーション ～美術 I の内容・評価について 描画材としての鉛筆	・美術科で取り組む内容について教科書や図録、生徒作品を鑑賞する ・鉛筆による明度の表現を習得させ、立体表現や質感表現につなげる。	・プリント ・ワークシート ・作品	
	5月 モダンテクニック ・ゼンタングル ・モビール	・さまざまな技法を学び、絵画の多様性を知る。 ・絵具や筆などの使い方について体験して理解させる。 ・色の混合や配色について体験して理解させる。 ・道具の扱い方に注意させながら展開する	・ワークシート ・作品	
	6月 はりこ	・粘土や和紙の扱いについて理解し、工夫を凝らして造形する。 ・粘土を成型するうえでの基本的な技術を学ぶ。	・ワークシート ・プリント ・作品	
	7月	・意図に応じた表現や色彩を工夫できるようにする。		
	9月 ポスター制作	・行事の意義を確認させ、ポスターの目的や特性について理解し、表現する。 ・意図に応じた表現、色彩、文字、材料や用具、制作方法を工夫できるようにする。	・プリント ・作品	
後期 (10月～3月)	10月 伝統工芸「藍染」 ・エコバック制作	・郷土の工芸品の美しさや魅力について気づかせ、郷土を愛好する心情を育てる。 ・地域産業の大切さや魅力に気づかせる。 ・図や写真をつかい視覚的にわかりやすく説明する。 ・染料は衣類に付着すると落ちにくいいため、藍や道具の扱い方には十分注意させる	・プリント ・作品	
	11月 ペーパークラフト ・ポップアップカード	・ポップアップのしくみや種類について理解する。 ・カッターの技術習得および紙や接着剤の扱い方について学ぶ	・プリント ・ワークシート ・作品	
	12月	・山折、谷折の基本技術を習得する。 ・のりしろの扱い方、接着剤の使用方法について理解する ・イメージに合うようなしかけのデザインを考案する。		
	1月 版画	・版画の技法を理解し、版の特色や効果などを考え、表現方法を工夫する。	・プリント ・ワークシート ・作品	
	2月	・作者の心情や意図、表現の工夫などを読み取り、そのよさや美しさなどを感じ取る。		
	3月 鑑賞	・作者の心情や意図、表現の工夫などを読み取り、そのよさや美しさなどを感じ取る。	・プリント ・ワークシート	
	まとめ	・1年間の学習を振り返る	・レポート	
評価の観点と方法 ① 主体的に創造活動に取り組み、その喜びを味わい、美術を愛好しようとする。 ② 感性や想像力を働かせて豊かに発想し、心豊かで創造的な表現をする。 ③ 美術作品や文化遺産などに親しみ、感性や想像力を働かせてよさや美しさを感じ取ったり、理解したりする。 方法: アイディアスケッチ、プリント、ワークシート、作品、授業の様子等を総合的に判断して行う。				
使用教科書・副読本	高校生の美術1(日本文教出版)		実習費	3,000円
教材・道具等				

科目名・単位数	美術Ⅱ	(2)単位	学習レベル	標準
---------	-----	---------	-------	----

学習目標 ① 美術の創造的な諸活動を通して、美的体験を豊かにする。 ② 美術を愛好する心情を育てるとともに、感性を育てる。 ③ 美術文化についての理解を深め個性豊かな美術の能力を高める。				
--	--	--	--	--

学期	学習内容		提出物
前期 (4月～9月)	4月	美術オリエンテーション	造形表現能力の発達について年間計画について理解する
	4月 5月	基本形の鉛筆デッサン 「立方体」のデッサン	基本形の構造を理解する。 (立方体、円柱、円錐、球) 光と明暗、調子の関係を理解する。 立体感、及び存在感を表現する。
	6月	人物クロッキー ポーズや速写時間を変えてクロッキー	デッサンとクロッキーの違いに気づかせる。 短時間に人物の大まかな動きをとらえて表現する。
	6月 7月	シンボルマークのデザイン 「真和志フェスティバル」のシンボルマ	学校行事に関連したデザインの学習制作するに当たっての留意点、独自性、象徴性、記憶度を理解しデザインに取り入れる。
	9月	アクリル画 ダンボールシートに描く自画像	自己を見つめその内面性や存在感を多様な方法で表す。
後期 (10月～3月)	10月 11月	彫刻 ～木とスーパーリアリズム～ ～木彫透視図レリーフの制作～	・資源としての『木』と人間との歩みについて考え、木について学習しその魅力を引き出す方法を学ぶ。
	12月	陶芸 日用雑貨を作る	・陶芸の素材である土の特性の理解を深め、基本的な造形技法を学び修得する。
	1月	ペン画によるイラスト テーマは各自で選択	ペン画の特徴である点、線描を学習し作品に応用できるようにする。
	2月	人物、静物、風景、構想画、等	自由に発想し画面を構成し表現を工夫する。 基礎的技法を演習を通して理解する
	3月	年間のまとめと鑑賞	作品の講評、鑑賞をおこなうことにより表現の大切さ喜びを知る。

評価の観点と方法 ① 美術に親しみ自ら進んで表現や鑑賞に取り組んでいる。 ② 感じたことや考えたことから発想し表現する。 ③ 表現技法を高めたり、新しい技法を創意工夫する。 方法: 作品の成績点、アイデアスケッチ等の提出物、授業態度、出席状況を総合的に評価す				
---	--	--	--	--

使用教科書・副読本	高等学校 美術2 (日本文教出版)	実習費	3,000 円
-----------	-------------------	-----	---------

教材・道具等	アクリル絵の具セット・キャンバス・桂板・ダンボールシート・各種紙類 他
--------	-------------------------------------

科目名・単位数	美術Ⅲ	(2)単位	学習レベル	標準
----------------	------------	----------------	--------------	-----------

学習目標 ① 美術の創造的な諸活動を通して、美的体験を豊かにする。 ② 美術を愛好する心情を育てるとともに、感性を育てる。 ③ 美術文化についての理解を深め個性豊かな美術の能力を高める。				
---	--	--	--	--

学期	学習内容	学習のねらい	提出物
前期 (4月～9月)	4月 美術オリエンテーション	造形表現能力の発達について年間計画について理解する	
	4月 基本形の鉛筆デッサン 5月 「立方体」のデッサン	基本形の構造を理解する。 (立方体、円柱、円錐、球) 光と明暗、調子の関係を理解する。 立体感、及び存在感を表現する。	作品
	6月 人物クロッキー ポーズや速写時間を変えてクロッキー	デッサンとクロッキーの違いに気づかせる。 短時間に人物の大まかな動きをとらえて表現する。	作品
	6月 シンボルマークのデザイン 7月 「真和志フェスタ」のシンボルマーク	学校行事と関連したデザインの学習制作するに当たっての留意点、独自性、象徴性、記憶度を理解しデザインに取り入れる。	アイデアスケッチ 作品
	9月 アクリル画 ダンボールシートに描く自画像	自己を見つめその内面性や存在感を多様な方法で表す。	デッサン 作品
後期 (10月～3月)	10月 木の玩具 11月 「ジグソーパズル」	幼児が楽しく興味を持って遊べるパズルを制作する。 木の特徴を活かした独創的で安全なデザインであることを理解する。 発想から完成までの過程を計画的に学習する。	アイデアスケッチ 作品
	12月 陶芸 日用雑貨を作る	・陶芸の素材である土の特性の理解を深め、基本的な造形技法を学び修得する。	アイデアスケッチ 作品
	1月 ペン画によるイラスト テーマは各自で選択	ペン画の特徴である点、線描を学習し作品に応用できるようにする。	ワークシート
	2月 人物、静物、風景、構想画、等	自由に発想し画面を構成し表現を工夫する。 基礎的技法を演習を通して理解する	アイデアスケッチ 作品
	3月 年間のまとめと鑑賞	作品の講評、鑑賞をおこなうことにより表現の大切さ喜びを知る。	

評価の観点と方法 ① 美術に親しみ自ら進んで表現や鑑賞に取り組んだ。 ② 感じたことや考えたことから発想し表現する。 ③ 表現技法を高めたり、新しい技法を創意工夫する。 方法: 作品の成績点、アイデアスケッチ等の提出物、授業態度、出席状況を総合的に評価する。			
--	--	--	--

使用教科書・副読本	高等学校 美術2 (光村図書)	実習費	3,000 円
-----------	-----------------	-----	---------

教材・道具等 アクリル絵の具セット・キャンバス・桂板・ダンボールシート・各種紙類 他

科目名・単位数		コース基礎(陶芸・イラスト・写真) (4)単位		学習レベル	基礎
学習目標 ① コース基礎の3領域を学び、自己の特性を模索する中で専門の方向性を決める。 ② 芸術活動の体系の中で共通する表現の方法を学ぶ取る。 ③ 鑑賞活動を積極的に行い、芸術作品を味わいながらそれぞれの感受性を高め、自己の制作活動を深化さ					
学期	学習内容	学習のねらい	提出物		
前期 (4月～9月)	4月 オリエンテーション	・コースの授業形態を理解する。			
	【写真・映像デザイン基礎】班 4月 オリエンテーション ①暗室基礎	・年間の授業計画と基本的な心構えを準備 ・暗室の使用方法や印画紙やフィルムの取り扱いや現像液の処理方法を学ぶ			
	5月 ②カメラを使用しない写真(フォトグラム)	・印画紙の基礎的な仕組みを露光時間の違い等で理解させ写真の基本を学びとる。			
	6月 ③ピンホールカメラ	・手作りカメラを制作する中からカメラの原理を理解させる。			
	【陶芸】班 9月 オリエンテーション 陶芸概論 荒練り・菊練り練習 手び練り作品制作 ①湯のみ ②どんぶり	・年間の授業計画と基本的な心構えを準備 ・陶芸に関する歴史的背景から陶芸の始まりを知る。 ・土の性質を知り、土の扱いを身体で感じ取る ・器作りの基本的制作方法を学び取り、また手練りの味わいを感じ取る。	プリント	作品	
	10月				
後期 (10月～3月)	11月 電気ロクロ体験 ①湯のみ ②どんぶり	・電気ロクロの扱い方と制作方法を学ぶ	作品		
	11月 ミニシーサー作り	・郷土にある工芸を学びながら陶芸の楽しさを体験する。	作品		
	【イラスト・まんが表現基礎】班 12月オリエンテーション 漫画の基礎	・年間の授業計画と基本的な心構えを準備 ・漫画の基礎について学ぶ	演習プリント		
	1月 漫画の描き方	・漫画の描き方について学習する。	作品		
2月 イラスト基礎 漫画模写、一コマ漫画、オリキャラ	・イラストの基礎的表現や画材の扱いを学ぶ ・漫画の効果的な演出方法を学ぶ	演習プリント 作品			
評価の観点と方法 観点 ① 関心・意欲・態度を評価する。 ※出席状況や授業態度も含まれる。 ② 制作過程における工夫や努力を評価する。 ※自己の課題を発見し積極的に試みる ③ 鑑賞を通じて、自己の感性をいかに向上させているのかを評価する。 方法 ①上にあげた観点を総合的に評価する。					
使用教科書・副読本			実習費	8,000 円	
教材・道具等					

科目名・単位数		映像表現 I (コース2年) (4)単位		学習レベル	応用
<p>学習目標</p> <p>① コース基礎をさらに深めた技術の習得を高める。 ② 写真表現を通して、コンセプトを自ら設定し、作品をプレゼンする能力を養う。 ③ 互いの作品を鑑賞し合いながら、表現の可能性を学びあう姿勢を養っていく。</p>					
学期	学習内容		学習のねらい		
前期 (4月～9月)	4月	1. 35mm一眼レフカメラ基礎実習(白黒) ・フィルムづくり ・撮影 ・密着現像と引き伸ばし ・パネルづくり・鑑賞会	・コース基礎を深めた内容 ・絞りと被写界深度の理解		1. 課題作品 2. 反省と感想
	5月 6月	2. 組写真課題制作(白黒) 5～10枚の組写真で表現する (六つ切りサイズ) ・コンセプト ・取材計画 ・撮影 ・現像、密着 ・セレクト ・プリント ・パネル制作 ・プレゼンテーション ・鑑賞会	・コンセプトを自ら設定し、組写真で表現する。 ・単写真の表現との違いについて学び作品に生かしていく。 ・組写真のもつ、ストーリー性やリズム統一感と、組の順との関係について考える。 ・プレゼンを行うことで、自らの作品に対する考えを伝える。		
	7月 9月				
	10月	3. リバーサルフィルム撮影基礎 ・コンセプト ・取材計画 ・現像 ・セレクトとマウント ・音楽の選定と準備 ・タイトルとナレーション制作 ・プレゼンテーション ・鑑賞会	・テーマを深く掘り下げ、自分なりの解釈で表現する。 ・視覚言語としての写真表現を考えさせる		6. コンセプト
後期 (10月～3月)	11月				7. 課題作品 8. 反省と感想
	12月 1月 2月	4. カラープリントワーク撮影基礎 ・テーマ設定 ・コンセプト ・取材 ・現像、プリント ・セレクト ・プレゼンテーション ・鑑賞会	・最後の課題として自己の記念碑的な作品を制作する。 ・白黒とは違った色彩による表現の可能性を広げる。		9. コンセプト 10. 課題作品
	3月	まとめと鑑賞会	1年間の作品を振り返る。		11. 反省と感想
					1年間のまとめレポート
<p>評価の観点と方法</p> <p>① 基礎的な技術をさらに深め、ねばり強く作品に取り組めていたか。 ② 提出された作品から基礎的な技術・完成度・表現ができていたか。 ③ 鑑賞会・プレゼンテーションを通して、互いの作品から学び合えていたか。</p>					
使用教科書・副読本		無し		実習費	5,000円
教材・道具等		カメラ・現像器具等			

沖縄県立真和志高等学校シラバス		美術		コース クリエイティブアーツ		
科目名・単位数		映像表現Ⅱ(3年コース)		(4)単位	学習レベル 応用	
学習目標 ① 写真・ビデオ・コンピュータ等映像機器を使った表現活動を通し、機器による表現の能力を高める。 ② 映像による表現活動を通して、映像メディアが社会に果たす役割について理解を深める。 ③ 自他の作品と向き合うことで、表現の可能性に気づき、鑑賞の能力を高める。						
学期	学習内容		学習のねらい			
前期 (4月～9月)	4月	【写真】 表現 組写真課題制作 5～10枚の組写真で表現する。	35mm一眼レフカメラ実習		課題作品 課題作品	
	5月		・写真表現の学習内容をさらに深める ・段階的に確認しながら進める。 ①ISO感度設定 ②最短撮影距離 ③画角 ④フォーカス・シャッタースピード ⑤絞りと被写界深度の関係 ・コンセプトを自ら設定し、組写真で表現する。			
	6月	【アニメーション】 基礎技能	立体／平面 ゾートロープ		課題作品	
7月	16mmシネカリグラフィー					
9月	ビデオアニメーション コンピュータアニメーション * シンプルアニメ * エンドレスアニメーション					
後期 (10月～3月)	10月	アニメーション CG 基礎技法	コンピュータアニメーション (Premiere Pro)		課題作品	
	11月		・CG基礎 ・ソフト演習 各ソフトの基本操作を学ぶ ・タイムラインの理解 ・フレーム ・モーショントウイーン ・レイヤーの使い方 ・効果音 インタラクティブな仕掛けのついたアニメーション ・アクションスクリプト			
	12月	【映像】 表現 自由課題制作 2～3分程度	デジタル映像表現		絵コンテ 課題作品	
	1月		デジタルの表現力を駆使し、基礎技法を自らのテーマで掘り下げながら記念碑的な作品を制作。で掘り下げながら記念碑的な作品を制作。			
2月	・テーマ設定・コンセプト ・ストーリーボード ・絵コンテ・取材計画・撮影・音楽の選定と準備 ・タイトル・ナレーション制作 ・プレゼンテーション・鑑賞会					
3月	【鑑賞】	年間まとめと作品鑑賞		ポートフォリオのまとめ	1年間の反省	
評価の観点と方法 ① 関心・意欲・態度 映像機器を用いた表現を理解し、ねばり強く作品に取り組むことが出来たか。 ② 発想や構想の能力 アイディアや作品の制作過程において、自分なりの発想を発揮できていたか。 ③ 鑑賞の能力 自他の作品に触れながら、さまざまな表現の可能性について深く理解することが出来たか。						
使用教科書・副読本					実習費	5,000円
教材・道具等 一眼レフカメラ・映像器具・コンピュータ機器等						

科目名・単位数	環境造形	(4)単位	学習レベル	標準
----------------	-------------	----------------	--------------	-----------

学習目標 ① 自然や生活環境と造形との調和について理解を深め、造形的能力を総合的に生かす実践的な能力と態度を育てる。				
--	--	--	--	--

学期	学習内容	学習のねらい	提出物
前期 (4月～9月)	1 オリエンテーション ・ 環境造形とは？ 2 廃材で作る(紙等) ・ 廃材アイデアの作成 ・ プレゼンテーション 3 木で作る(流木を利用して) ・ 海で流木を回収する ・ 量感を感じながら作業を進める ・ 木の性質を知る ・ 木取り ・ あたり ・ 面取り ・ 削りだし ・ 磨き 仕上げ(オイル・ワックス) ・ プレゼンテーション	<ul style="list-style-type: none"> ・ 年間計画と基本的な心構え ・ 廃材の収集 ・ 廃材から物作り(アイデア作品の構想) ・ 製作について考える ・ 製作 ・ まとめ ・ レポート制作 ・ 鑑賞会準備 ・ 講評会を通して互いの作品の良さを的確に表現出来るようにさせる。 ・ 流木を利用し木彫の基礎を学ぶ ・ 流木の自然な形を利用した造形を考える ・ 削りの方法 ・ 接着の方法 ・ 研磨の方法 ・ 関連: 環境造形・石彫・彫塑 ウッドクラフト 	1 作品 アイデア スケッチ 2 作品 3 レポート 4 アイデア スケッチ 5 レポート 6 流木作品
後期 (10月～3月)	3 土で作る ・ デッサンを元に沖縄の赤土を用いて造形 ・ 土の性質を知る ・ 乾燥を考慮に入れながら大きなパーツから制作 ・ 各パーツの制作 ・ 各パーツの接着 ・ 細部の仕上げ ・ 乾燥 ・ プレゼンテーション 共同制作 ・ テーマ設定 ・ 表現方法の選択 ・ 資料収集 ・ 制作のプランニング ・ 材料の選定と準備 ・ 制作 ・ プレゼンテーション ・ 鑑賞会	<ul style="list-style-type: none"> ・ ひねりによる成形の基礎を学ぶ ・ かたまり作りによる成形の基礎を習得する。 ・ のばし→締め ・ 紐作りによる成形の基礎を習得する ・ 接着→のばし→締め ・ 陶芸の基礎を理解し、安全面に注意しながら作業を行えるようにする。 ・ 最後の課題として共同で学校の環境を取り込んだ記念碑的な作品を制作する ・ 関連: 全ての領域と関連させ総合的な質を高める ・ 関連分野の資料収集援助 ・ 制作ノートで個々の進行状況を把握 	7 作品 アイデア スケッチ 8 土レポート 9 作品 10 共同制作 制作 企画書 11 共同制作 作品

評価の観点と方法	
① 関心・意欲・態度	基礎技術習得のためのねばり強さと、失敗の原因を追及し何度でもやり直す態度を評価する。
② 発想や構想の能力	アイデアスケッチや作品の制作過程において発想や構想の能力を評価する。
③ 創造的な表現の技能	提出された作品から基礎技術の習得度および表現の技能を評価する。
④ 鑑賞の能力	合評会、展示会、プレゼンテーション等を通して互いの作品の良さを的確に表現できるか評価する。

使用教科書・副読本	無し	実習費	2,000 円
-----------	----	-----	---------

教材・道具等	作業着, 他
--------	--------

科目名・単位数	クラフト・デザイン	(4)単位	学習レベル	標準
---------	-----------	---------	-------	----

学習目標 ① デザインや工芸などの創造活動に主体的に取り組み、自己表現の喜びを味わう。 ② 材料の特性を吟味しその持ち味を大切に発想し、構想する。 ③ 作者の心情や意図、表現の工夫を感じ取り創造力の豊かさを感じ取る。				
学期	学習内容	学習のねらい	提出物	
前期 (4月～9月)	4月 オリエンテーション ～クラフト・デザインの内容・評価について～ ① ペーパークラフト ～型紙で模様をつけた小箱のデザイン～ ～型紙で作る・モバイル～	・クラフト・デザインで取り組む内容について説明し、カタログや図録、生徒作品等を鑑賞する ・紙を素材にもの作りを展開する。日常生活でも使用するカッター等を使い素材の特性を生かした小	・プリント ・ワークシート ・作品	
	5月 ～紙で作る・立体モバイル(魚)～ ～紙で作る・靴～	・針金や糸で自分のデザインした型紙を吊り、バランスを保たせた屋内装飾品を作る。 ・針金や糸に自分で着彩し制作した魚を吊り、バランスを保たせた屋内装飾品を作る。	・ワークシート ・作品 ・ワークシート ・作品	
	6月 ～紙で作る・ランプシェード～	・様々な種類の紙や特性を使って靴を作る。靴の構造を知り計画的に製作を進める。	・作品	
	7月 ～紙で作る・お面～	・針金で作った骨組みに和紙を貼りランプシェードを作る。	・ワークシート ・作品	
	9月 ～紙で作る・グリーティングカード～	・粘土で型を作り、水で薄くとした糊を塗り和紙を貼り重ねてお面を制作する。	・ワークシート ・作品	
	10月	② ワイヤークラフト ～ワイヤーで作る・小物入れ～ ～ワイヤーで作る・小物～	・これまで素材として使用してきた紙を自分で漉き、様々な技法などを使って感謝の気持ちを込めたグリーティングカードを制作する。 ・ワイヤーを切ったり曲げる事により装飾的な小物入れをデザインし制作する。	・ワークシート ・作品
後期 (10月～3月)	11月 ③ 陶芸 ～土で作る・土鈴～	・生活で使えるペン立てやトレーなどの小物を各自デザインしワイヤーで制作する。	・ワークシート ・作品	
	12月 ④ ジュエリーデザイン ～シルバーリング～	・陶土や成形方法について学び、テラコッタの技法で土鈴を作る。	・作品	
	1月 ⑤ 木工 ～木で作る・イス、ベンチ～	・銀粘土を使い指輪やネックレスのトップをデザインし制作する。	・作品	
	2月	・廃材の木材を集め加工して校内に置くベンチやイスをデザインし制作する。2～5名のグループで共同で製作をこなす。	・ワークシート ・作品	
3月	鑑賞 ～クラフト・デザイン～ ～作品展示会～	・授業では取り上げることのできなかった内容の作品等について、資料やメディアを通して学習する。 ・完成した作品を展示し鑑賞する。	・レポート ・プリント	
評価の観点と方法 ① デザインや工芸などの創造活動に主体的に取り組み、自己表現の喜びを味わうことができる。 ② 材料の特性を吟味しその持ち味を大切に自分らしく発想し、構想することができる。 ③ 美術作品や造形物に関心を持ち、作者の心情や意図、表現の工夫等、創造力の豊かさを感じ取るることができる。				
方法 アイディアスケッチ、プリント、ワークシート、作品、授業の様子等を総合的に判断して行う。				
使用教科書・副読本	なし		実習費	3,000 円
教材・道具等 各課題に応じて				

科目名・単位数	クラフト・デザイン	(4)単位	学習レベル	標準
---------	-----------	---------	-------	----

学習目標 ① デザインや工芸などの創造活動に主体的に取り組み、自己表現の喜びを味わう。 ② 材料の特性を吟味しその持ち味を大切にして発想し、構想する。 ③ 作者の心情や意図、表現の工夫を感じ取り創造力の豊かさを感じ取る。				
学期	学習内容	学習のねらい	提出物	
前期 (4月～9月)	4月 オリエンテーション ～クラフト・デザインの内容・評価について～ ① ペーパークラフト ～型紙で模様をつけた小箱のデザイン～ ～型紙で作る・モバイル～	・クラフト・デザインで取り組む内容について説明し、カタログや図録、生徒作品等を鑑賞する ・紙を素材にもの作りを展開する。日常生活でも使用するカッター等を使い素材の特性を生かした小	・プリント ・ワークシート ・作品	
	5月 ～紙で作る・立体モバイル(魚)～ ～紙で作る・靴～	・針金や糸で自分のデザインした型紙を吊り、バランスを保たせた屋内装飾品を作る。 ・針金や糸に自分で着彩し制作した魚を吊り、バランスを保たせた屋内装飾品を作る。	・ワークシート ・作品 ・ワークシート ・作品	
	6月 ～紙で作る・ランプシェード～	・様々な種類の紙や特性を使って靴を作る。靴の構造を知り計画的に製作を進める。	・ワークシート ・作品	
	7月 ～紙で作る・お面～	・針金で作った骨組みに和紙を貼りランプシェードを作る。	・ワークシート ・作品	
	9月 ～紙で作る・グリーティングカード～	・粘土で型を作り、水で薄くとした糊を塗り和紙を貼り重ねてお面を制作する。	・ワークシート ・作品	
	10月	② ワイヤークラフト ～ワイヤーで作る・小物入れ～ ～ワイヤーで作る・小物～	・これまで素材として使用してきた紙を自分で漉き、様々な技法などを使って感謝の気持ちを込めたグリーティングカードを制作する。 ・ワイヤーを切ったり曲げる事により装飾的な小物入れをデザインし制作する。	・ワークシート ・作品 ・ワークシート ・作品
後期 (10月～3月)	11月 ③ 陶芸 ～土で作る・土鈴～	・生活で使えるペン立てやトレーなどの小物を各自デザインしワイヤーで制作する。	・作品	
	12月 ④ ジュエリーデザイン ～シルバーリング～	・陶土や成形方法について学び、テラコッタの技法で土鈴を作る。	・作品	
	1月 ⑤ 木工 ～木で作る・イス、ベンチ～	・銀粘土を使い指輪やネックレスのトップをデザインし制作する。	・ワークシート ・作品	
	2月 3月 鑑賞 ～クラフト・デザイン～ ～作品展会場～	・廃材の木材を集め加工して校内に置くベンチやイスをデザインし制作する。2～5名のグループで共同で製作をこなす。 ・授業では取り上げることのできなかった内容の作品等について、資料やメディアを通して学習する。 ・完成した作品を展示し鑑賞する。	・レポート ・プリント	
評価の観点と方法 ① デザインや工芸などの創造活動に主体的に取り組み、自己表現の喜びを味わうことができる。 ② 材料の特性を吟味しその持ち味を大切にして自分らしく発想し、構想することができる。 ③ 美術作品や造形物に関心を持ち、作者の心情や意図、表現の工夫等、創造力の豊かさを感じ取るることができる。				
方法 アイディアスケッチ、プリント、ワークシート、作品、授業の様子等を総合的に判断して行う。				
使用教科書・副読本	なし		実習費	3,000 円
教材・道具等 各課題に応じて				

沖縄県立真和志高等学校シラバス		教科	美術	コース	共通選択	
科目名・単位数		ビジュアルデザイン(普通・クリエイティブアーツコース)(4)単位			学習レベル	基礎
学習目標						
① 視覚デザインにおける機能と、基本的な技能を習得する。 ② デザインが身近な生活の中で、どのように関わっているかという社会的役割を理解する。 ③ 自らのアイデアを作品に生かし、デザインの楽しさを感じる。						
学期	学習内容		学習のねらい		提出物	
前期 (4月～9月)	4月	オリエンテーション	授業の内容・作品提出・評価について			
	5月	色彩表現	・人の目を引く配色・色の持つ感情効果を学ぶ。 ・目的にあった色選びができるようにする。		コンセプトワークシート	
		キャラクターデザイン	・学校の中にいる架空の妖怪を楽しくデザインする。			
	6月	コップのデザイン	・使用する人の気持ちになって、デザインする。 ・色や形にこだわりを持つ。 ・デザインカッターが使えるようになる。		イメージスケッチ 課題作品	
	7月					
9月	パッケージデザイン ①コンセプトの設定 ②イメージスケッチ ③着彩・仕上げ	・沖縄をイメージした包装紙のデザイン。 ・沖縄観光に関連した施設・店舗等で使用する想定でアイデアスケッチをする。 ・観光客が商品を選ぶ際に喜ばれるデザイン。		課題作品		
後期 (10月～3月)	10月	平面構成	・人工物・自然物を対象に、様々な技法を使って構成する。 ・動き・バランス・デフォルメ等、創造的な構成の能力を高める。 ・配色の手法について理解する。		課題作品	
	11月	カレンダーデザイン	・使用する人の立場から、見やすい使いやすいデザイン。 ・季節や年中行事を意識したデザイン。		イメージスケッチ 課題作品	
	12月		・題材は自由だが、自分が興味があり、完成まで計画的に取り組む。			
	1月	本の製本	・これまで制作してきたデザインやイラスト表現を素材として本を制作する。 ・製本の工程を学び、技術を修得させる。		課題作品	
	2月					
3月	まとめ 1年間の作品を振り返る。	・1年間の反省とまとめ				
評価の観点と方法						
① 関心・意欲・態度 基礎技術習得のための粘り強さと、期限を意識して計画的に取り組んでいたか。 ② 発想や構想の能力 アイデアや作品の制作過程において発想や構想の能力を評価する。 ③ 創造的表現の技能 提出された作品から、基礎技術の習得度および表現な技能を評価する。						
使用教科書・副読本		無し			実習費	3,000円
教材・道具等製図道具・絵の具等						

沖縄県立真和志高等学校シラバス		教科	美術	コース	共通選択	
科目名・単位数		ビジュアルデザイン(普通・クリエイティブアーツコース)(4)単位			学習レベル	基礎
学習目標						
① 視覚デザインにおける機能と、基本的な技能を習得する。 ② デザインが身近な生活の中で、どのように関わっているかという社会的役割を理解する。 ③ 自らのアイデアを作品に生かし、デザインの楽しさを感じる。						
学期	学習内容		学習のねらい		提出物	
前期 (4月～9月)	4月	オリエンテーション	授業の内容・作品提出・評価について			
	5月	色彩表現	・人の目を引く配色・色の持つ感情効果を学ぶ。 ・目的にあった色選びができるようにする。		コンセプトワークシート	
		キャラクターデザイン	・学校の中にいる架空の妖怪を楽しくデザインする。			
	6月	コップのデザイン	・使用する人の気持ちになって、デザインする。 ・色や形にこだわりを持つ。 ・デザインカッターが使えるようになる。		イメージスケッチ 課題作品	
	7月					
9月	パッケージデザイン ①コンセプトの設定 ②イメージスケッチ ③着彩・仕上げ	・沖縄をイメージした包装紙のデザイン。 ・沖縄観光に関連した施設・店舗等で使用する想定でアイデアスケッチをする。 ・観光客が商品を選ぶ際に喜ばれるデザイン。		課題作品		
後期 (10月～3月)	10月	平面構成	・人工物・自然物を対象に、様々な技法を使って構成する。 ・動き・バランス・デフォルメ等、創造的な構成の能力を高める。 ・配色の手法について理解する。		課題作品	
	11月	カレンダーデザイン	・使用する人の立場から、見やすい使いやすいデザイン。 ・季節や年中行事を意識したデザイン。		イメージスケッチ 課題作品	
	12月		・題材は自由だが、自分が興味があり、完成まで計画的に取り組む。			
	1月	本の製本	・これまで制作してきたデザインやイラスト表現を素材として本を制作する。 ・製本の工程を学び、技術を修得させる。		課題作品	
	2月					
3月	まとめ 1年間の作品を振り返る。	・1年間の反省とまとめ				
評価の観点と方法						
① 関心・意欲・態度 基礎技術習得のための粘り強さと、期限を意識して計画的に取り組んでいたか。 ② 発想や構想の能力 アイデアや作品の制作過程において発想や構想の能力を評価する。 ③ 創造的表現の技能 提出された作品から、基礎技術の習得度および表現な技能を評価する。						
使用教科書・副読本		無し			実習費	3,000円
教材・道具等製図道具・絵の具等						

科目名単位数		絵画		(4) 単位	学習レベル	標準
<p>学習目標</p> <p>いろいろな表現様式による絵画表現を通して、表現と鑑賞の能力を高める。</p>						
学期	学習内容		学習のねらい		提出物	
前期 (4月～9月)	4月	鉛筆デッサン	<p>アクリル画の幅広い表現方法、絵の具の特性を理解する。 主体的で個性的な表現力を培う。</p> <p>水彩絵の具の特性を活かして多様な表現方法を試みる。 親しみやすい画材を通して表現の喜びを味わう。</p> <p>各自でテーマを選定して制作(静物、人物、構想画、等) ・アクリル画の幅広い表現方法、絵の具の特性を理解する。 ・キャンバスを利用することで、紙に描くこととは異なった感触を体感する。</p> <p>複合的表現を理解する。 複数の表現形式を構成する能力を高める。</p>	作品		
	5月	各自でテーマを選定して制作する。 静物・人物・風景・構想画等				
	5月	水彩画 生花を水彩紙にスケッチして描く。				
	6月	生花や器物をポストカード(水彩用)にスケッチして絵手紙を描く。				
	7月	アクリル画			作品 アイデアスケッチ	
	9月	混合材料による絵画(ミクストメディア) 自分の日常生活の記録を作品化する。				
後期 (10月～3月)	10月	手作りのキャンバスに描く	<p>既成のキャンバスサイズにとらわれず自由な形を考える。 地塗りやマチエルは材料により幅広く工夫できることを理解する。</p> <p>現実の世界を再現するのではなく絵を構成している点、線、面、色彩、色彩動勢と言った要素でつくられていることを理解する。</p> <p>見る人を引きつける 表現内容を発想する能力を培う。 まんがは時間経過、人間愛、自然愛など豊かな感情や技術が必要なことを理解する。</p> <p>作品の講評、鑑賞を通して表現の大切さ喜びを知る。</p>	作品		
	11月	自分に合ったキャンバスを手づくりして、地塗しも工夫する。 いろいろなモチーフから1点を選び描写する。				
	12月	抽象表現				
	1月	具体的な形ではなく線そのもの、色彩そのもの等で構成した作品を制作する。				
	1月	まんが 1コマ～4コマ、まんがの制作				
2月	世界情勢、社会現象、身近な話題をもとに発想する。		作品 演習プリント			
	3月	年間のまとめと鑑賞				
<p>評価の観点と方法</p> <p>① 美術への関心、意欲、態度、鑑賞の能力 ② 発想や構想の能力 ③ 創造的な能力</p> <p>方法:実技課題の成績点、アイデアスケッチ等の提出物、学習態度、出席状況を総合的に評価する。</p>						
使用教科書・副読本					実習費	3,000 円
<p>教材・道具等</p> <p>絵の具類(アクリル・水彩・ジェットン・他)、絵画用具、キャンバス、絵画用具、各種紙類</p>						

科目名・単位数	写真一般	(4)単位	学習レベル	標準
----------------	-------------	----------------	--------------	-----------

学習目標 ① 写真の基本的な原理を学ぶ。 ② 写真の現像・プリント作業を学ぶ。 ③ 鑑賞活動を積極的に行い、それぞれの感受性を高め、自己の制作活動を深化させる。				
--	--	--	--	--

学期	学習内容	学習のねらい	提出物
前期 (4月～9月)	4月 オリエンテーション 4月 フォトグラム 5月～9月 35mm1眼レフカメラ 撮影課題 <虫の目>	・年間の授業計画と基本的な心構えを準備 ・暗室の使い方と注意 ・薬液の役割(作り方と使い方) ・印画紙の使い方 ・引き伸ばし機の使い方 ・フィルム作り ・1眼レフカメラの操作 ・フィルム現像の薬液作り ・現像タンク、リールの使い方 ・ダークバックの使用法 ・密着現像と引き伸ばし 撮影基礎技法 ・被写界深度の理解 ・露出時間の決定 ・露出補正 ・密着現像と引き伸ばし ・覆い焼き・焼きこみ ・印画紙のコントラスト	作品 撮影データ 作品 撮影データ
	10月～11月 デジタル一眼レフ撮影 (スライドショー形式での表現) 12月～3月 自主制作	・コンセプトを自ら設定し、スライドショーで表現する。 ・コンセプト ・取材計画 ・撮影 ・現像 ・セレクトとマウント ・音楽の選定と準備 ・タイトル、ナレーション制作 ・プレゼンテーション ・鑑賞会 最後の課題として自己の記念碑的な作品を制作する。 ・テーマ設定 ・コンセプト ・取材 ・撮影 ・セレクト ・プレゼンテーション ・鑑賞会	作品

評価の観点と方法 ① 関心・意欲・態度を評価する。(出席状況や授業態度も含まれる。) ② 制作過程における工夫や努力を評価する。 ③ 鑑賞を通じて、自己の感性をいかに向上させているのかを評価する。				
--	--	--	--	--

使用教科書・副読本		実習費	¥5,000 円
教材・道具等			

科目名・単位数		陶芸一般EF (4)単位		学習レベル	標準
学習目標 ① 陶芸の歴史を学ぶ中から陶芸の奥深さを理解し、作品制作につなげる。 ② 多くの技法を学び、創造性を見だし応用的な作品作りを行う。 ③ 鑑賞活動を積極的に行い、芸術作品を味わう態度と姿勢を養う。					
学期	学習内容	学習のねらい		提出物	
前期 (4月～9月)	4月 オリエンテーション	・授業のあり方や持ち方を理解し、スムーズな授業の進行を図る。			
	4月 陶芸概論	・陶芸の基礎的な知識を学び、生活とのつながりから生れた陶芸の存在と可能性を考える。			
	4月 土練り練習	・陶芸の始まりは「土を練る」ということを理解し、素材感を実感してもらう。			
	手練り作品制作	・陶芸の基礎的技法である「手練り」を体験しその素朴さを感じとる。		作品	
	5月 電気ロクロ体験	・電気ロクロの使用方法を知る。			
	6月 ロクロ作品制作①「湯呑」	・作品化を考え、イメージどおりの大きさや形を実現化する		作品	
	7月 ロクロ作品制作②「小鉢」 ロクロ作品制作③「小皿」	・練習を重ねることの大切さを知る。		作品 作品 作品	
後期 (10月～3月)	9月 シーサー作り	・陶器だけに限らず造形としての楽しみを知り発展させる。		作品	
	9月 素焼き鉢制作「型による制作」	・型の技法を学び種々の目的による作品制作を促す。		作品	
	10月 タタラ板によるマグカップ制作	・技法的には難しいが、土を板として加工し新しい造形を発見させる。		作品	
	10月 タタラ板による花瓶製作	・板同士の接続法を学ぶ。		作品	
	11月 陶芸自由課題	・これまでの体験から自己がイメージできる造形を計画的に作業させ積極的な造形活動を促す。		計画書及び作品	
	2月 作品展示鑑賞会	・これまでの作品を展示し、展示し見てもらう立場から次回への作品制作の意欲としたい		作品感想文	
評価の観点と方法 ① 関心・意欲・態度 基礎技術習得のためのねばり強さと、失敗の原因を追究し何度でもやり直す態度を評価する。 ② 発想や構想の能力 アイディアスケッチや作品の制作過程において発想や構想の能力を評価する。 ③ 創造的な表現の技能 提出された作品から基礎技術の習得度および表現の技能を評価する。 ④ 鑑賞の能力 合評会、展示会、プレゼンテーション等を通して互いの作品の良さを的確に表現できるか評価する。					
使用教科書・副読本	なし			実習費	3,000 円
教材・道具等 タオル・着替え					

科目名・単位数	構成(クリエイティブアーツコース3年)	(2)単位	学習レベル	応用
---------	---------------------	---------	-------	----

学習目標 ① 構成力や色彩感覚等、基本的な表現力を学ぶ。 ② テーマやイメージを、自分のねらい通りに表現できるようにする。 ③ 鑑賞活動を積極的に行い、それぞれの感受性を高め、自己の制作活動を深化させる。				
---	--	--	--	--

学期	学習内容	学習のねらい	提出物
前期 (4月～9月)	4月 オリエンテーション 4月 色面分割 5月 「光」をテーマに色彩構成する。 6月 構図の基本 6月 構成要素が定められている課題クリップをモチーフにして色彩構成 7月 クリップをモチーフにして色彩構成 9月～10月中旬 複数のモチーフを基にして色彩構成 手とスプーンを基にして色彩構成	・年間の授業計画と基本的な心構えを準備 ・単純化した色面で、物の形態や構造感などを表現できることを学ぶ。 ・「光」からイメージする事柄を基にして、色彩構成する。イラスト・マンガ風、写実的な表現等、表現方法は自由である。 ・デザイン・絵画等の作品を基にしなが、構図の基本を学ぶ。 ・具体的な物をモチーフにする。 ・物の形態や構造、素材感などを観察。そこから主張したい要素を見せられるように、形の表現、構成を考える。 ・複数のモチーフを用いて魅力的な画面を構成する。 ・構成パターンを工夫する。	作品
後期 (10月～3月)	10月中旬～11月 大きなテーマを基にして色彩構成 動物をテーマにして色彩構成 12月 抽象的なイメージと物を組み合わせて色彩構成 人体をモチーフにして、「喜・怒・哀・楽」を表現する。 1月～2月初旬 単語からイメージした色彩構成 「重い」と「軽い」のイメージを色彩構成	・大きなテーマを基にし、イメージを膨らませて構成する。種類・機能・状況・特徴などからねらいをしぼる。 ・人体の1部分(目・手・口など)や、身体の形(ポーズ)をモチーフにして、感情を表現する。 ・形・色・線のイメージを表現したい内容に活かすようにする。 2つの異なったイメージを画面内で表現する。 ・形・色・線のイメージを表現したい内容に活かすようにする。具体的な物を描くかどうかは自由である。	作品

評価の観点と方法 ① 関心・意欲・態度を評価する。(出席状況や授業態度も含まれる。) ② 制作過程における工夫や努力を評価する。 ③ 鑑賞を通じて、自己の感性をいかに向上させているのかを評価する。				
---	--	--	--	--

使用教科書・副読本		実習費	1,000 円
教材・道具等			

科目名・単位数	情報メディアデザイン(クリエイティブアーツコース3年)	(4)単位	学習レベル	標準
学習目標 ① インターネットの活用方法とコンピュータの基本的な操作の理解、情報モラルなどの徹底。 ② Webデザインで使用するパソコンソフトの基本操作の理解と習得。 ③ 既製品ではない、個性の光るオリジナリティ豊かなWebデザインを目標とする。				
学期	学習内容	学習のねらい	提出物	
前期 (4月～9月)	1、インターネットの基礎 インターネットを知る ・お気に入りリンク集の作成 ・インターネットと社会 ・インターネットの危険性 2、CGの基礎 デジタル画像の加工と処理 ① フォトショップの基本操作(ラスター画像処理) ・イメージの取り込み ・レベル補正 ・解像度とサイズ ・トーンカーブ ・変形・修正・合成 など ② フリーハンドの基本操作(ベクター画像処理) ベジェ曲線の理解、トレース ・オブジェクトの操作 ・ペンツール ・パス ・変形 ・修正 ・合成 ・レイヤー ・ブレンド ・フィルターワーク ・アピアランス ・ペンタブ基本操作	・インターネットの活用方法とコンピュータの基本的な操作の理解。 ・情報モラルについての理解。 (著作権,肖像権,ネチケツ,ネット犯罪等) ・個人情報についての考察。 基礎課題によりソフトの基本操作の理解、習得。目的やイメージに合わせた画像加工と処理方法の理解。 ※ラスター系のソフトとラスター系のソフトの違いの理解 ・ラスター系ソフト Photoshop(Adobe) ・ベクター系ソフト Illustrator (Macromedia)	毎時間、配布するテキストプリントとファイル。 課題(データ) 「集合写真」 「名刺」 「暑中見舞い」 課題(データ) 「地図」 「映画ポスター」	
後期 (10月～3月)	3、動画編集 アニメーション表現 コンピュータアニメーション プレミアの基本操作 ・タイムラインの理解 ・フレーム ・モーショントウイーン ・レイヤーの使い方 ・効果音 インタラクティブな仕掛けのついたアニメーション 4、Web表現 基本動画制作 ・テーマとシナリオ制作 ・絵コンテ制作 ・撮影 ・編集 5、Web表現 自由動画制作 ・テーマとシナリオ制作 ・絵コンテ制作 ・撮影 ・編集 ・公開と管理	デジタル機器を用いた動画の作成と編集。 ・ベクター系アニメーションの効果を理解。 ・視覚言語としての映像表現を考えさせる。 動画編集ソフトプレミアの基本操作の理解、習得。 ・静止画、動画の挿入。 ・効果的なボタン設定とアクション設定の考察。 ・利用者を意識したプレゼンテーション。 プレミアの応用 ・テーマ設定し撮影計画する ・作品の絵コンテを細かく作成する ・プレミアで編集し作品を完成させる ・プレゼンテーションを行う。	課題(データ) 「2コマアニメーション」 「エンドレスアニメーション」 課題(データ) 「テーマ動画」 課題(データ) 「オリジナル動画」	
評価の観点と方法 ① 関心・意欲・態度 基礎技術習得のためのねばり強さと、失敗の原因を追及し何度でもやり直す態度を評価する。 ② 発想や構想の能力 アイディアスケッチや作品の制作過程において発想や構想の能力を評価する。 ③ 創造的な表現の技能 提出された作品から基礎技術の習得度および表現の技能を評価する。 ④ 鑑賞の能力 合評会、展示会、プレゼンテーション等を通して互いの作品の良さを的確に表現できるか評価する。				
使用教科書・副読本	Webデザイン入門、Photoshop演習、など		実習費	500円
教材・道具等 Webデザインテキスト、デジタルカメラ、パソコン及びソフト(Photoshop、Freehand、Flash、Dream weaverなど)				

科目名・単位数	クラフト・デザイン	(4)単位	学習レベル	標準
---------	-----------	---------	-------	----

学習目標					
① デザインや工芸などの創造活動に主体的に取り組み、自己表現の喜びを味わう。 ② 材料の特性を吟味しその持ち味を大切にして発想し、構想する。 ③ 作者の心情や意図、表現の工夫を感じ取り創造力の豊かさを感じ取る。					
学期	学習内容	学習のねらい	提出物		
前期 (4月～9月)	4月 オリエンテーション ～クラフト・デザインの内容・評価について～ ① ペーパークラフト ～型紙で模様をつけた小箱のデザイン～ ～型紙で作る・モバイル～	・クラフト・デザインで取り組む内容について説明し、カタログや図録、生徒作品等を鑑賞する ・紙を素材にもの作りを展開する。日常生活でも使用するカッター等を使い素材の特性を生かした小	・プリント ・ワークシート ・作品		
	5月 ～紙で作る・立体モバイル(魚)～ ～紙で作る・靴～	・針金や糸で自分のデザインした型紙を吊り、バランスを保たせた屋内装飾品を作る。 ・針金や糸に自分で着彩し制作した魚を吊り、バランスを保たせた屋内装飾品を作る。	・ワークシート ・作品 ・ワークシート ・作品		
	6月 ～紙で作る・ランプシェード～	・様々な種類の紙や特性を使って靴を作る。靴の構造を知り計画的に製作を進める。	・ワークシート ・作品		
	7月 ～紙で作る・お面～	・針金で作った骨組みに和紙を貼りランプシェードを作る。	・ワークシート ・作品		
	9月 ～紙で作る・グリーティングカード～	・粘土で型を作り、水で薄くとした糊を塗り和紙を貼り重ねてお面を制作する。	・ワークシート ・作品		
	10月	② ワイヤークラフト ～ワイヤーで作る・小物入れ～ ～ワイヤーで作る・小物～	・これまで素材として使用してきた紙を自分で漉き、様々な技法などを使って感謝の気持ちを込めたグリーティングカードを制作する。	・プリント ・作品	
後期 (10月～3月)	11月 ③ 陶芸 ～土で作る・土鈴～	・ワイヤーを切ったり曲げる事により装飾的な小物入れをデザインし制作する。 ・生活で使えるペン立てやトレーなどの小物を各自デザインしワイヤーで制作する。	・ワークシート ・作品		
	12月 ④ ジュエリーデザイン ～シルバーリング～	・陶土や成形方法について学び、テラコッタの技法で土鈴を作る。	・作品		
	1月 ⑤ 木工 ～木で作る・イス、ベンチ～	・銀粘土を使い指輪やネックレスのトップをデザインし制作する。	・作品		
	2月	・廃材の木材を集め加工して校内に置くベンチやイスをデザインし制作する。2～5名のグループで共同で製作をこなす。	・ワークシート ・作品		
3月	鑑賞 ～クラフト・デザイン～ ～作品展示会～	・授業では取り上げることのできなかった内容の作品等について、資料やメディアを通して学習する。 ・完成した作品を展示し鑑賞する。	・レポート ・プリント		
評価の観点と方法					
① 【知識・技能】形や色、質感、重心やバランス、動勢などの効果を工夫し、全体のイメージなどをと耐え、素材の特性を生かして表す ② 【思考・判断・表現】素材の特性を理科し、表したいイメージを元に形や色、質感、重心などの効果を考え、構想を練ったり鑑賞したり ③ 【主体的に学習に取り組む態度】使う素材を理科し、立体に表す学習活動に、主体的に取り組む 方法: アイディアスケッチ、プリント、ワークシート、作品、授業の様子等を観点別で評価し総合的に評価を行う。					
使用教科書・副読本	なし		実習費	3,000 円	
教材・道具等 各課題に応じて					

科目名・単位数	クラフト・デザイン	(4)単位	学習レベル	標準
---------	-----------	---------	-------	----

学習目標				
① デザインや工芸などの創造活動に主体的に取り組み、自己表現の喜びを味わう。 ② 材料の特性を吟味しその持ち味を大切にして発想し、構想する。 ③ 作者の心情や意図、表現の工夫を感じ取り創造力の豊かさを感じ取る。				
学期	学習内容	学習のねらい	提出物	
前期 (4月～9月)	4月 オリエンテーション ～クラフト・デザインの内容・評価について～ ① ペーパークラフト ～型紙で模様をつけた小箱のデザイン～ ～型紙で作る・モバイル～	・クラフト・デザインで取り組む内容について説明し、カタログや図録、生徒作品等を鑑賞する ・紙を素材にもの作りを展開する。日常生活でも使用するカッター等を使い素材の特性を生かした小	・プリント ・ワークシート ・作品	
	5月 ～紙で作る・立体モバイル(魚)～ ～紙で作る・靴～	・針金や糸で自分のデザインした型紙を吊り、バランスを保たせた屋内装飾品を作る。 ・針金や糸に自分で着彩し制作した魚を吊り、バランスを保たせた屋内装飾品を作る。	・ワークシート ・作品 ・ワークシート ・作品	
	6月 ～紙で作る・ランプシェード～	・様々な種類の紙や特性を使って靴を作る。靴の構造を知り計画的に製作を進める。	・ワークシート ・作品	
	7月 ～紙で作る・お面～	・針金で作った骨組みに和紙を貼りランプシェードを作る。	・ワークシート ・作品	
	9月 ～紙で作る・グリーティングカード～	・粘土で型を作り、水で薄くとした糊を塗り和紙を貼り重ねてお面を制作する。	・ワークシート ・作品	
	10月	② ワイヤークラフト ～ワイヤーで作る・小物入れ～ ～ワイヤーで作る・小物～	・これまで素材として使用してきた紙を自分で漉き、様々な技法などを使って感謝の気持ちを込めたグリーティングカードを制作する。 ・ワイヤーを切ったり曲げる事により装飾的な小物入れをデザインし制作する。	・ワークシート ・作品 ・ワークシート ・作品
後期 (10月～3月)	11月 ③ 陶芸 ～土で作る・土鈴～	・生活で使えるペン立てやトレーなどの小物を各自デザインしワイヤーで制作する。	・作品	
	12月 ④ ジュエリーデザイン ～シルバーリング～	・陶土や成形方法について学び、テラコッタの技法で土鈴を作る。	・作品	
	1月 ⑤ 木工 ～木で作る・イス、ベンチ～	・銀粘土を使い指輪やネックレスのトップをデザインし制作する。	・ワークシート ・作品	
	2月 3月 鑑賞 ～クラフト・デザイン～ ～作品展示会～	・廃材の木材を集め加工して校内に置くベンチやイスをデザインし制作する。2～5名のグループで共同で製作をこなす。 ・授業では取り上げることのできなかった内容の作品等について、資料やメディアを通して学習する。 ・完成した作品を展示し鑑賞する。	・レポート ・プリント	
評価の観点と方法				
① 【知識・技能】形や色、質感、重心やバランス、動勢などの効果を工夫し、全体のイメージなどをと耐え、素材の特性を生かして表す ② 【思考・判断・表現】素材の特性を理科し、表したいイメージを元に形や色、質感、重心などの効果を考え、構想を練ったり鑑賞したり ③ 【主体的に学習に取り組む態度】使う素材を理科し、立体に表す学習活動に、主体的に取り組む 方法: アイディアスケッチ、プリント、ワークシート、作品、授業の様子等を観点別で評価し総合的に評価を行う。				
使用教科書・副読本	なし		実習費	3,000 円
教材・道具等 各課題に応じて				

沖縄県立真和志高等学校シラバス		教科	美術	コース	共通選択
科目名・単位数	ビジュアルデザイン(普通・クリエイティブアーツコース)(4)単位			学習レベル	基礎
学習目標					
① イラストや写真、文字の形や色、構成などの効果について理解し、伝えたいイメージなどを捉え表す。 ② 伝えたいメッセージや伝える場面などを基に、形や、色彩、写真やイラスト、文字などによる伝達効果を考え構想を練る。又、作品を鑑賞する。 ③ 伝えたい内容を効果的に表せるよう学習活動に主体的に取り組む。					
学期	学習内容		学習のねらい	提出物	
前期 (4月～9月)	4月	オリエンテーション	授業の内容・作品提出・評価について		
	5月	色彩表現	<ul style="list-style-type: none"> 人の目を引く配色・色の持つ感情効果を学ぶ。 目的にあった色選びができるようにする。 	コンセプトワークシート	
		キャラクターデザイン	<ul style="list-style-type: none"> 学校の中にいる架空の妖怪を楽しくデザインする。 		
	6月	コップのデザイン	<ul style="list-style-type: none"> 使用する人の気持ちになって、デザインする。 色や形にこだわりを持つ。 デザインカッターが使えるようになる。 	イメージスケッチ 課題作品	
	7月				
9月	パッケージデザイン ①コンセプトの設定 ②イメージスケッチ ③着彩・仕上げ	<ul style="list-style-type: none"> 沖縄をイメージした包装紙のデザイン。 沖縄観光に関連した施設・店舗等で使用する想定でアイデアスケッチをする。 観光客が商品を選ぶ際に喜ばれるデザイン。 	課題作品		
後期 (10月～3月)	10月	平面構成	<ul style="list-style-type: none"> 人工物・自然物を対象に、様々な技法を使って構成する。 動き・バランス・デフォルメ等、創造的な構成の能力を高める。 配色の手法について理解する。 	課題作品	
	11月	カレンダーデザイン	<ul style="list-style-type: none"> 使用する人の立場から、見やすい使いやすいデザイン。 季節や年中行事を意識したデザイン。 題材は自由だが、自分が興味があり、完成まで計画的に取り組む。 	イメージスケッチ 課題作品	
	12月				
	1月	本の製本	<ul style="list-style-type: none"> これまで制作してきたデザインやイラスト表現を素材として本を制作する。 製本の工程を学び、技術を修得させる。 	課題作品	
	2月				
3月	まとめ 1年間の作品を振り返る。	<ul style="list-style-type: none"> 1年間の反省とまとめ 			
評価の観点と方法					
① 【知識・技能】イラストや写真の技術を習得し、文字の形や色、構成などの効果を生かすことができている。 ② 【思考力・判断力・表現力】形や、色彩、写真やイラスト、文字などの伝達効果を考え構想を練っている。 ③ 【主体的に取り組む態度】積極的に学習へ取り組み、伝えたいことを工夫しながら主体的に取り組んでいる。					
使用教科書・副読本				無し	実習費 3,000円
教材・道具等製図道具・絵の具等					

沖縄県立真和志高等学校シラバス		教科	美術	コース	共通選択
科目名・単位数	ビジュアルデザイン(普通・クリエイティブアーツコース)(4)単位			学習レベル	基礎
学習目標					
① イラストや写真、文字の形や色、構成などの効果について理解し、伝えたいイメージなどを捉え表す。 ② 伝えたいメッセージや伝える場面などを基に、形や、色彩、写真やイラスト、文字などによる伝達効果を考え構想を練る。又、作品を鑑賞する。 ③ 伝えたい内容を効果的に表せるよう学習活動に主体的に取り組む。					
学期	学習内容		学習のねらい	提出物	
前期 (4月～9月)	4月	オリエンテーション	授業の内容・作品提出・評価について		
	5月	色彩表現	<ul style="list-style-type: none"> 人の目を引く配色・色の持つ感情効果を学ぶ。 目的にあった色選びができるようにする。 	コンセプトワークシート	
		キャラクターデザイン	<ul style="list-style-type: none"> 学校の中にいる架空の妖怪を楽しくデザインする。 		
	6月	コップのデザイン	<ul style="list-style-type: none"> 使用する人の気持ちになって、デザインする。 色や形にこだわりを持つ。 デザインカッターが使えるようになる。 	イメージスケッチ 課題作品	
	7月				
9月	パッケージデザイン	<ul style="list-style-type: none"> 沖縄をイメージした包装紙のデザイン。 沖縄観光に関連した施設・店舗等で使用する想定でアイディアスケッチをする。 観光客が商品を選ぶ際に喜ばれるデザイン。 	課題作品		
後期 (10月～3月)	10月	平面構成	<ul style="list-style-type: none"> 人工物・自然物を対象に、様々な技法を使って構成する。 動き・バランス・デフォルメ等、創造的な構成の能力を高める。 配色の手法について理解する。 	課題作品	
	11月	カレンダーデザイン	<ul style="list-style-type: none"> 使用する人の立場から、見やすい使いやすいデザイン。 季節や年中行事を意識したデザイン。 題材は自由だが、自分が興味があり、完成まで計画的に取り組む。 	イメージスケッチ 課題作品	
	12月				
	1月	本の製本	<ul style="list-style-type: none"> これまで制作してきたデザインやイラスト表現を素材として本を制作する。 製本の工程を学び、技術を修得させる。 	課題作品	
	2月				
3月	まとめ	1年間の作品を振り返る。	1年間の反省とまとめ		
評価の観点と方法					
① 【知識・技能】イラストや写真の技術を習得し、文字の形や色、構成などの効果を生かすことができている。 ② 【思考力・判断力・表現力】形や、色彩、写真やイラスト、文字などの伝達効果を考え構想を練っている。 ③ 【主体的に取り組む態度】積極的に学習へ取り組み、伝えたいことを工夫しながら主体的に取り組んでいる。					
使用教科書・副読本				無し	実習費 3,000円
教材・道具等製図道具・絵の具等					

科目名単位数		絵画		(4)単位	学習レベル	標準
<p>学習目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・知識及び技能を身につけ特性を生かして表す。 ・思考力、判断力、表現力を使い構想を練ったり鑑賞したりする。 ・美しさを捉える学びに主体的に取り組む。 						
学期	学習内容		学習のねらい		提出物	
前期 (4月～9月)	4月	鉛筆デッサン	<p>アクリル画の幅広い表現方法、絵の具の特性を理解する。 主体的で個性的な表現力を培う。</p> <p>水彩絵の具の特性を活かして多様な表現方法を試みる。 親しみやすい画材を通して表現の喜びを味わう。</p> <p>各自でテーマを選定して制作(静物、人物、構想画、等) ・アクリル画の幅広い表現方法、絵の具の特性を理解する。 ・キャンバスを利用することで、紙に描くこととは異なった感触を体感する。</p> <p>複合的表現を理解する。 複数の表現形式を構成する能力を高める。</p>	作品		
	5月	各自でテーマを選定して制作する。 静物・人物・風景・構想画等		作品		
	5月	水彩画 生花を水彩紙にスケッチして描く。				
	6月	生花や器物をポストカード(水彩用)にスケッチして絵手紙を描く。				
	7月	アクリル画	作品 アイデアスケッチ			
	9月	混合材料による絵画(ミクストメディア) 自分の日常生活の記録を作品化する。				
後期 (10月～3月)	10月	手作りのキャンバスに描く	<p>既成のキャンバスサイズにとらわれず自由な形を考える。 地塗りやマチエルは材料により幅広く工夫できることを理解する。</p> <p>現実の世界を再現するのではなく絵を構成している点、線、面、色彩、色彩動勢と言った要素でつくられていることを理解する。</p> <p>見る人を引きつける 表現内容を発想する能力を培う。 まんがは時間経過、人間愛、自然愛など豊かな感情や技術が必要なことを理解する。</p> <p>作品の講評、鑑賞を通して表現の大切さ喜びを知る。</p>	作品		
	11月	自分に合ったキャンバスを手づくりして、地塗りも工夫する。 いろいろなモチーフから1点を選び描写する。				
	12月	抽象表現		作品		
	1月	具体的な形ではなく線そのもの、色彩そのもの等で構成した作品を制作する。				
	1月	まんが 1コマ～4コマ、まんがの制作		作品 演習プリント		
2月	世界情勢、社会現象、身近な話題をもとに発想する。					
	3月	年間のまとめと鑑賞				
<p>評価の観点と方法</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 形や色彩、明暗、質感などの効果、全体のイメージなどを捉え、線の強弱や絵具などの特性を生かして表す。 ② 身近なものの特徴や美しさなどを基に、形や色彩、質感などの効果を考え構想を練ったり鑑賞したりする。 ③ 身近なものの特徴や美しさなどを捉えて表す学習活動に主体的に取り組む。 <p>方法 アイデアスケッチ、プリント、ワークシート、作品、授業の様子等を総合的に判断して行う。</p>						
使用教科書・副読本					実習費	3,000円
<p>教材・道具等</p> <p>絵の具類(アクリル・水彩・ジェツソ・他)、絵画用具、キャンバス、絵画用具、各種紙類</p>						

科目名・単位数	写真一般	(4)単位	学習レベル	標準
---------	------	---------	-------	----

学習目標 ① 写真の基本的な原理を学ぶ。 ② 写真の現像・プリント作業を学ぶ。 ③ 鑑賞活動を積極的に行い、それぞれの感受性を高め、自己の制作活動を深化させる。			
---	--	--	--

学期	学習内容	学習のねらい	提出物
前期 (4月～9月)	4月 オリエンテーション 4月 フォトグラム	<ul style="list-style-type: none"> ・年間の授業計画と基本的な心構えを準備 ・暗室の使い方と注意 ・薬液の役割(作り方と使い方) ・印画紙の使い方 ・引き伸ばし機の使い方 	作品 撮影データ
	5月～9月 35mm1眼レフカメラ 撮影課題 <虫の目>	<ul style="list-style-type: none"> ・フィルム作り ・1眼レフカメラの操作 ・フィルム現像の薬液作り ・現像タンク、リールの使い方 ・ダークバックの使用方法 ・密着現像と引き伸ばし 撮影基礎技法 <ul style="list-style-type: none"> ・被写界深度の理解 ・露出時間の決定 ・露出補正 ・密着現像と引き伸ばし ・覆い焼き・焼きこみ ・印画紙のコントラスト 	作品 撮影データ
後期 (10月～3月)	10月～11月 デジタル一眼レフ撮影 (スライドショー形式での表現)	<ul style="list-style-type: none"> ・コンセプトを自ら設定し、スライドショーで表現する。 ・コンセプト ・取材計画 ・撮影 ・現像 ・セレクトとマウント ・音楽の選定と準備 ・タイトル、ナレーション制作 ・プレゼンテーション ・鑑賞会 	作品
	12月～3月 自主制作	最後の課題として自己の記念碑的な作品を制作する。 <ul style="list-style-type: none"> ・テーマ設定 ・コンセプト ・取材 ・撮影 ・セレクト ・プレゼンテーション ・鑑賞会 	

評価の観点と方法 ① 構図や静止の効果など、被写体のイメージを捉え表現できているかを評価する。 ② 制作過程における作者の意図と創造的な工夫や努力を評価する。 ③ 鑑賞を通じて、自己の感性をいかに向上させているのかを評価する。			
--	--	--	--

使用教科書・副読本		実習費	¥5,000 円
教材・道具等			

科目名・単位数		素描(クリエイティブアーツコース2年)		(2)単位	学習レベル	標準
学習目標 ① 対象を描写することにとどまらず、対象を深く見つめ観察する能力を養う。 ② 様々な描画材の種類や違いを理解し、その持ち味や特性を生かして表現する。 ③ 他者の視点やよさ、美しさを感じることができる感性を高め、美やよりよい精神を求めて生きる態度を養う。						
学期	学習内容	学習のねらい			提出物	
前期 (4月～9月)	4月 オリエンテーション	・素描で取り組む内容について生徒作品や図録を使い説明する。			・プリント	
	5月 木炭デッサン ・基本立体	・イーゼルの使い方、木炭の使い方や基本的な表現方法について理解する。 ・観察力を身につけ、光源と陰影の付け方を知る。			・ワークシート ・作品	
	6月 ・静物素描	・複数のモチーフを捉える力を身につける。質感や立体感を出すための、工夫や努力をする。			・ワークシート ・作品	
	7月 ・石膏像A	・首像を頭部は球、首は円柱で置き換えて大きな構造で捉えて表現する。 ・目、鼻、口は立体の中での凹凸であることに気づかせ、形の狂いに注意して正確にとらえる。			・ワークシート ・作品	
	9月 ・石膏像B	・面、量、動きを捉え、明暗の調子やタッチの方向、線の強弱を考えて描く。 ・細部にとらわれず大まかに形を取り、石膏像の白さが表せるように明暗をつけて描く。 ・大胆なタッチで骨格を把握しながら描く。明暗のバランスに気をつけて表現する。 ・デッサンの表現技法や方法について学び、他者の作品のよさや美しさを味わう。			・作品	
後期 (10月～3月)	10月 鉛筆デッサン ・基本立体	木炭デッサンとは違った表現を学び、明暗の調子やタッチの方向、線の強弱を考えて表現する。			・プリント	
	11月 ・静物素描	・複数のモチーフを捉える力を身につける。質感や立体感を出すための、工夫や努力をする。			・ワークシート ・作品	
	12月 ・石膏像A	・首像を頭部は球、首は円柱で置き換えて大きな構造で捉えて表現する。 ・目、鼻、口は立体の中での凹凸であることに気づかせ、形の狂いに注意して正確にとらえる。			・ワークシート ・作品	
	1月 ・石膏像B	・面、量、動きを捉え、明暗の調子やタッチの方向、線の強弱を考えて描く。 ・細部にとらわれず大まかに形を取り、石膏像の白さが表せるように明暗をつけて描く。 ・大胆なタッチで骨格を把握しながら描く。明暗のバランスに気をつけて表現する。			・作品	
	3月 1年の振り返り	・今年度描いた作品を鑑賞し、振り返る。				
評価の観点と方法 ① 知識・技能 形や明暗、質感などの効果、主体のイメージを捉え、線の強弱や画材の特性を生かして表現する。 ② 思考・判断・表現 身近なものの特徴や美しさなどを基に、形や質感、陰影などの効果を考え、構図を練つくり鑑賞し表現する。 ③ 主体性 自ら取り組み、身近なものの特徴や美しさなどを捉え表現する。自ら主体的に取り組む。						
方法 アイディアスケッチ、プリント、ワークシート、作品、授業の様子等を観点別に評価し総合的に判断して行う						
使用教科書・副読本					実習費	1,500 円
教材・道具等 カルトン、鉛筆(6B～6H)、練りゴム、木炭、ガーゼ、芯抜き、フィキサチーフ、ケント紙、木炭紙、等						

科目名・単位数	陶芸 I (コース2年)	(4) 単位	学習レベル	応用
学習目標 <ul style="list-style-type: none"> ① より専門的な技術の習得と、主に沖縄の伝統技術を学びながら、それらを発展させていく力と発想力を養う。 ② 気象状況や制作の仕方など常に自然との流れの中での制作であることを知り、先人の知恵を学びながら自らの制作過程に生かす態度を身につける。 ③ 素材の持つ魅力を知り、自己表現と兼ねあわせながら「造形的美」「用の美」を両立できる自由な創作活動を目指す。 				
学期	学習内容	学習のねらい	提出物	
前期 (4月～9月)	1 道具作り(こて、かんな、しっぴきなど) <ul style="list-style-type: none"> ・流木を用いたコテ作り ・結束鋼を用いたカンナ作り 2 ひねり基礎(かたまり作り, 紐作り) <ul style="list-style-type: none"> ① 抹茶碗 かたまり ② どんぶり 紐 ③ 花瓶 紐(30cm以上) 3 たたら基礎 <ul style="list-style-type: none"> ① 銘々皿 ② 大皿 3 焼成基礎 <ul style="list-style-type: none"> ① 釉がけ ② 窯詰め ③ 焼成方法 <ul style="list-style-type: none"> ・素焼き 850℃前後 ・本焼き 1230℃前後 OF 酸化焼成 RF 還元焼成 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 形態にあった道具を、身近な材料で作る。 ・ ひねりによる成形の基礎を学ぶ ・ かたまり作りによる成形の基礎を習得する。 ・ のばし→締め ・ 紐作りによる成形の基礎を習得する ・ 接着→のばし→締め ・ 釉薬と焼成方法の基礎を理解し、焼き上がりを予測しながら、施釉出来るようにする。 ※焼成作業は特に安全面に注意が必要 <ul style="list-style-type: none"> ・ 窯詰めから焼成までの基礎を理解し、安全面に注意しながら作業を行えるようにする。 ・ 施釉から焼成についてポイントをまとめる。 	1 こて2種 2 カンナ 3 しっぴき 4 抹茶碗3種 5 どんぶり 6 花瓶 7 銘々皿 8 大皿 9 焼成レポート	
後期 (10月～3月)	4 土作り 2kg 2kg 2kg 5 ろくろ基礎 <ul style="list-style-type: none"> ・ 菊練り ・ 中心 ・ 土殺し 6 ろくろ課題Ⅰ <ul style="list-style-type: none"> ① 湯飲み ② 茶碗 ③ 皿 7 ろくろ課題Ⅱ <ul style="list-style-type: none"> ④ カップ&ソーサー ⑤ ポット ⑥ 自由制作(1点) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ すいひを行うことで素材の再生方法の理解と、計画的・経済的な使用を考える。 ・ ろくろ成形の基礎を学ぶ。① ・ 菊練り、土殺し等の意味と手の動きを理解させ、繰り返すことにより伝統の技を習得させる。 ・ ろくろ成形の基礎を学ぶ。② ・ トンボを用いてセットものを作る ・ 加飾を工夫する ・ 実用的な形とデザインについて考える。 ・ これまで学んだ様々な技法を応用して制作できるようにする。 	10 土2kg 11 土2kg 12 土2kg 13 湯飲み 14 茶碗 15 皿 16 カップ 17 ソーサー 18 ポット 19 自由制作	
評価の観点と方法 <ul style="list-style-type: none"> ① 知識・技能 作品やワークシートから陶芸に関する知識の概念的な習得と基礎技術の技能を評価する。 ② 思考・判断・表現 作品の制作過程において作品及びアイディアスケッチや事後レポート、話し合い活動によって発想や構想の能力を評価する。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 制作の計画を立て実行していく行動力と、基礎技術習得のためのねばり強さと、失敗の原因を追及し何度でもやり直す態度を評価する。 				
使用教科書・副読本	無し	実習費	3,000 円	
教材・道具等 白土(信楽), 赤土(壺屋), へら, こて, 切り糸, なめし皮, カンナ, 釉薬, 等				

科目名・単位数		陶芸一般EF (4)単位		学習レベル	標準
学習目標 ① 陶芸の歴史を学ぶ中から陶芸の奥深さを理解し、作品制作につなげる。 ② 多くの技法を学び、創造性を見だし応用的な作品作りを行う。 ③ 鑑賞活動を積極的に行い、芸術作品を味わう態度と姿勢を養う。					
学期	学習内容	学習のねらい		提出物	
前期 (4月～9月)	4月 オリエンテーション	・授業のあり方や持ち方を理解し、スムーズな授業の進行を図る。			
	4月 陶芸概論	・陶芸の基礎的な知識を学び、生活とのつながりから生れた陶芸の存在と可能性を考える。			
	4月 土練り練習	・陶芸の始まりは「土を練る」ということを理解し、素材感を実感してもらう。			
	手練り作品制作	・陶芸の基礎的技法である「手練り」を体験しその素朴さを感じとる。		作品	
	5月 電気ロクロ体験	・電気ロクロの使用方法を知る。			
	6月 ロクロ作品制作①「湯呑」	・作品化を考え、イメージどおりの大きさや形を実現化する		作品	
	7月 ロクロ作品制作②「小鉢」 ロクロ作品制作③「小皿」	・練習を重ねることの大切さを知る。		作品 作品	
後期 (10月～3月)	9月 シーサー作り	・陶器だけに限らず造形としての楽しみを知り発展させる。		作品	
	9月 素焼き鉢制作「型による制作」	・型の技法を学び種々の目的による作品制作を促す。		作品	
	10月 タタラ板によるマグカップ制作	・技法的には難しいが、土を板として加工し新しい造形を発見させる。		作品	
	10月 タタラ板による花瓶製作	・板同士の接続法を学ぶ。		作品	
	11月 陶芸自由課題	・これまでの体験から自己がイメージできる造形を計画的に作業させ積極的な造形活動を促す。		計画書及び作品	
	2月 作品展示鑑賞会	・これまでの作品を展示し、展示し見てもらう立場から次回への作品制作の意欲としたい		作品感想文	
評価の観点と方法 ① 知識・技能 作品やワークシートから陶芸に関する知識の概念的な習得と基礎技術の技能を評価する。 ② 思考・判断・表現 作品の制作過程において作品及びアイデアスケッチや事後レポート、話し合い活動によって発想や構想の能力を評価する。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 制作の計画を立て実行していく行動力と、基礎技術習得のためのねばり強さと、失敗の原因を追究し何度でもやり直す態度を評価する。					
使用教科書・副読本	なし		実習費	3,000 円	
教材・道具等 タオル・着替え					

科目名・単位数		平面メディア表現 I (コース2年)		(4) 単位	学習レベル	標準
学習目標 ① 平面デザインを中心に視覚的効果や伝達機能について理解を深める。 ② 多様な表現方法を通して、創造的で効果的な視覚伝達の表現や鑑賞の能力を高める。 ③ 主体的に鑑賞したり、表現の可能性を追求し学習を深める。						
学期	学習内容		学習のねらい		提出物	
前期 (4月～9月)	4月	オリエンテーション	授業の心構え、年間計画について理解する。		作品	
	4月 5月	表現につなげる技法 鉛筆デッサン・クロッキー 色彩表現(水彩絵の具・アクリル・ポスターカラー等)	まんが、イラストを豊かな感情、感性に満ちたものにするための表現技法について理解する。			
	6月	イラストレーションについて理解を深める	テーマをもとにしたイラストの発想や能力を高める。			テーマ別作品
	7月	フリーテーマ(パネル作品制作)	新しい表現材料を組合せた表現や複数の表現形式を試みる。			テーマ別作品
	9月	作品鑑賞会	イラストは、その目的、ねらい、力によって表現内容と技法などを明快適切に魅力的に効果的に又印象深く楽しく見せることを理解する。			アイデアスケッチ
後期 (10月～3月)	10月	まんが イメージトレーニング	まんがは、時間や物語性、自分の思いや憧れなどを自由に表すことが出来る特性が有ることを理解する。		作品 ワークシート	
	11月	画面の演出・背景処理 画材・用具の効果的取り扱い	線の美しさや表情の多様さ、1コマの中の時間の経過や動きを理解する。		テーマ別作品 アイデアスケッチ	
	12月	1コマ、まんが 4コマ、まんが	自分独自の表現になるよう工夫する態度を育てる。 (オリジナル作品の醸成)			
	1月	風刺まんが	まんがを効果的に演出する基礎的技法を応用することで、幅広い表現を工夫させる。			
	2月	短編まんが フリーテーマ				
	3月	年間のまとめと鑑賞	作品の講評、鑑賞を通して作者の意図や心情を理解し、表現のよさや情緒生を味わう。			
	評価の観点と方法 ① 【知識・技能】幅広い表現技法、絵の具や多様な画材、用具を活用し表現方法、技法を工夫して表現する。 ② 【思考・判断・表現】時間や物語性などを中心に主題を見出し、線の美しさや表情の多彩さ、豊かな発想で表現する。 ③ 【主体的に学習に取り組む態度】美術への関心を持ち、自分独自の表現を目指して創造的に取り組む。 方法:実技課題の成績点、アイデアスケッチ等の提出物、学習態度を観点別に評価し、総合的に行う。					
使用教科書・副読本		イラスト・まんがの指導書			実習費	2,000 円
教材・道具等 絵の具類(ポスターカラー・水彩・アクリル等)、デザイン用具、まんが材料、各種紙類						

科目名・単位数		素描(クリエイティブアーツコース3年)		(4)単位	学習レベル	標準
学習目標 ① 対象を描写することにとどまらず、対象を深く見詰め観察する能力を養う。 ② 様々な描画材の種類や違いを理解し、その持ち味や特性を生かして表現する。 ③ 他者の視点やよさ、美しさを感じることができる感性を高め、美やよりよい精神を求めて生きる態度を養う。						
学期	学習内容	学習のねらい	提出物			
前期 (4月～9月)	4月 オリエンテーション ～素描(3年)の内容・評価について～	・素描Ⅱで取り組む内容について生徒作品や図録を使い説明する。	・プリント			
	5月 基本立体のデッサン ～直方体の人工物～	・比較的捉えやすく表現しやすい『テッシュの箱』をデッサンする。紙の質感や箱の高さ幅、奥行きに注意し対象を良く観察して描く。	・ワークシート ・作品			
	～円柱の人工物～	・比較的捉えやすく表現しやすい『空き缶』をデッサンする。金属の質感や形、高さ幅、奥行きに注意し対象を良く観察して描く。	・ワークシート ・作品			
	6月 ～人工物を組み合わせて描く～	・円柱の人工物と直方体の人工物を組み合わせて形態や空間、質感を表現する。	・作品			
	7月 ～人工物と自然物を組み合わせて描く～	・人工物と自然物を組み合わせて形態や空間、質感を表現する。	・作品			
9月 ～写真を見て描く～	・有名人の顔や風景などの写真を模写し明暗で表現する。	・作品				
後期 (10月～3月)	10月 ～着彩写生～	・花や瓶などを組み合わせてデッサンし、水彩による着彩表現を行う。	・作品			
	11月 ～石膏デッサン①～	・首像を頭部は球、首は円柱で置き換えて大きな構造で捉えて表現する。	・作品			
	12月 ～石膏デッサン②～	・目、鼻、口は立体の中での凹凸であることに気づかせ、形の狂いに注意して正確にとらえる。 ・面、量、動きを捉え、明暗の調子やタッチの方向、線の強弱を考えて描く。	・作品 ・作品			
	1月 ～石膏デッサン③～	・細部にとらわれず大まかに形を取り、石膏像の白さが表せるように明暗をつけて描く。	・作品			
	2月 ～人物デッサン～	・大胆なタッチで骨格を把握しながら描く。明暗のバランスに気をつけて表現する。	・作品			
	3月 鑑賞 ～作品展示会～	・デッサンの表現技法や方法について学び、他者の作品のよさや美しさを味わう。 ・完成した作品を展示し鑑賞する。	・レポート ・プリント			
評価の観点と方法 ① 対象を描写することにとどまらず、対象を深く見詰め観察することができる。 ② 様々な描画材の種類や違いを理解し、その持ち味や特性を生かして表現することができる。 ③ 他者の視点やよさ、美しさを感じることができる感性を高め、美やよりよい精神を求めることができる。 方法 アイディアスケッチ、プリント、ワークシート、作品、授業の様子等を総合的に判断して行う。						
使用教科書・副読本					実習費	1,500 円
教材・道具等 カルトン、鉛筆(6B～6H)、練りゴム、木炭、ガーゼ、芯抜き、フィキサチーフ、ケント紙、木炭紙、等						

科目名・単位数		素描(一般)		(2)単位	学習レベル	標準
学習目標						
① 対象を描写することにとどまらず、対象を深く見詰め観察する能力を養う。 ② 様々な描画材の種類や違いを理解し、その持ち味や特性を生かして表現する。 ③ 他者の視点やよさ、美しさを感じることができる感性を高め、美やよりよい精神を求めて生きる態度を養う。						
学期	学習内容	学習のねらい	提出物			
前期 (4月～9月)	4月 オリエンテーション	・素描で取り組む内容について生徒作品や図録を使い説明する。	・プリント			
	5月 木炭デッサン ・基本立体	・イーゼルの使い方、木炭の使い方や基本的な表現方法について理解する。 ・観察力を身につけ、光源と陰影の付け方を知る。	・ワークシート ・作品			
	6月 ・静物素描	・複数のモチーフを捉える力を身につける。質感や立体感を出すための、工夫や努力をする。	・ワークシート ・作品			
	7月 ・石膏像A	・首像を頭部は球、首は円柱で置き換えて大きな構造で捉えて表現する。 ・目、鼻、口は立体の中での凹凸であることに気づかせ、形の狂いに注意して正確にとらえる。	・ワークシート ・作品			
	9月 ・石膏像B	・面、量、動きを捉え、明暗の調子やタッチの方向、線の強弱を考えて描く。 ・細部にとらわれず大まかに形を取り、石膏像の白さが表せるように明暗をつけて描く。 ・大胆なタッチで骨格を把握しながら描く。明暗のバランスに気をつけて表現する。 ・デッサンの表現技法や方法について学び、他者の作品のよさや美しさを味わう。	・作品			
後期 (10月～3月)	10月 鉛筆デッサン ・基本立体	木炭デッサンとは違った表現を学び、明暗の調子やタッチの方向、線の強弱を考えて表現する。	・プリント			
	11月 ・静物素描	・複数のモチーフを捉える力を身につける。質感や立体感を出すための、工夫や努力をする。	・ワークシート ・作品			
	12月 ・石膏像A	・首像を頭部は球、首は円柱で置き換えて大きな構造で捉えて表現する。 ・目、鼻、口は立体の中での凹凸であることに気づかせ、形の狂いに注意して正確にとらえる。	・ワークシート ・作品			
	1月 ・石膏像B	・面、量、動きを捉え、明暗の調子やタッチの方向、線の強弱を考えて描く。 ・細部にとらわれず大まかに形を取り、石膏像の白さが表せるように明暗をつけて描く。 ・大胆なタッチで骨格を把握しながら描く。明暗のバランスに気をつけて表現する。	・作品			
	3月 1年の振り返り	・今年度描いた作品を鑑賞し、振り返る。				
評価の観点と方法						
① 対象を描写することにとどまらず、対象を深く見詰め観察することができる。 ② 様々な描画材の種類や違いを理解し、その持ち味や特性を生かして表現することができる。 ③ 他者の視点やよさ、美しさを感じることができる感性を高め、美やよりよい精神を求めることができる。						
方法 アイデアスケッチ、プリント、ワークシート、作品、授業の様子等を総合的に判断して行う。						
使用教科書・副読本				実習費	1,500 円	
教材・道具等						
カルトン、鉛筆(6B～6H)、練りゴム、木炭、ガーゼ、芯抜き、フィキサチーフ、ケント紙、木炭紙、等						

科目名・単位数	陶芸Ⅱ(3年コース)	(4)単位	学習レベル	応用
---------	------------	---------	-------	----

学習目標 ① より専門的な技術の習得と、主に沖縄の伝統技術を子ひながら、それを発展させていく力と発想力を養う ② 気象状況や制作の仕方など常に自然との流れの中での制作であることを知り、先人の知恵を学びながら自らの制作過程に生かす態度を身につける。 ③ 素材の持つ魅力を知り、自己表現と兼ねあわせながら「造形的美」「用の美」を両立できる自由な創作活動を目指す。 ④ 鑑賞活動を積極的に行い、芸術作品を味わいながらそれぞれの感受性を高め思考し、自己の制作活動へと繋げる。				
--	--	--	--	--

学期	学習内容	学習のねらい	提出物
前期 (4月～9月)	4月 オリエンテーション	・授業のあり方や持ち方を理解し、スムーズな授業の進行を図る。	
	5月 電動ろくろ課題 大皿/壺 成形 高台削り	・土の関係と形を考え、制作の各プロセスを理解と進行のタイミング習得 ・早い時点で基本的技術をマスターする。	10作品程度
	6月 手練り作品制作 「抽象的陶芸作品」 7月	・皿などのような機能性だけでなく造形的な作品づくりを行う ・自由な発想を育てる。 ・大きな作品の挑戦	作品
	9月 本格シーサー作り	・陶器だけに限らず造形としての楽しみを知り発展させる。	作品
後期 (10月～3月)	10月 陶芸自由課題 中間発表会	・これまでの体験から自己がイメージできる造形を計画的に作業させ積極的な造形活動を促す。 ・3点以上の作品を制作する。	作品
	2月 作品展示鑑賞会 クリエイティブアーツコース卒業作品展	・これまでの作品を展示し、展示し見てもらう立場から次回への作品制作の意欲としたい ・見学のお客様の感想をもとに反省会を行う。	計画書と作品 感想用紙

評価の観点と方法 ① 関心・意欲・態度 ② 発想や構想の能力 ③ 創造的な表現の技能 ④ 鑑賞の能力		基礎技術習得のためのねばり強さと、失敗の原因を追及し何度でもやり直す態度を評価 アイディアスケッチや作品の制作過程において発想や構想の能力を評価する。 提出された作品から基礎技術の習得度および表現の技能を評価する。 合評会、展示会、プレゼンテーション等を通して互いの作品の良さを的確に表現できるか評価する。
---	--	--

使用教科書・副読本	なし	実習費	3,000 円
教材・道具等	タオル・着替え		

科目名・単位数		美術 Ⅲ(普通・クリエイティブアーツコース3年)	(2)単位	学習レベル	応用
学習目標 ① 美術Ⅰ・Ⅱで学んだ平面の基礎・立体等の基礎を踏まえ、自主的に課題を計画し取り組む。 ② 創造活動にこれまでの経験を取り入れながら工夫し、応用的な作品作りを行う。 ③ 鑑賞活動を積極的に行い、芸術作品を味わいながらそれぞれの感受性を高め、自己の制作活動を深化させる。					
学期	学習内容		学習のねらい		提出物
前期 (4月～9月)	4月	オリエンテーション 鉛筆に親しむ	・自己紹介とこれまでの美術の流れを確認 ・楽しみながら鉛筆を削ったり鉛筆で表現することで、今後の授業への意欲を高める。		作品
		モダンテクニック①	・フロッタージュやデカルコマニーなどの技法について学び、材料や技法から感性を引き出す。		作品
		モダンテクニック②	・偶然性の良さを理解し、それをコントロールする技術を学ぶ。		作品
	5月 6月 7月	自画像～今を生きるあなたへ～ 自画像作品鑑賞会	・「今を生きる自分、なりたい未来の自分」をテーマに、自分と向き合いながら相応しい表現方法を模索する。 ・他者の作品を通じて新しい発見と次回の創作意欲を高める。		作品 作品と感想文
後期 (10月～3月)	9月	造形遊び① (陶芸による)	・土をとおして生れる造形の楽しさを味わう。限らない創造性の可能性を模索させる。		作品
	10月	造形遊び② (陶芸による)	・土の造形加工法を踏まえ、大型作品を考案させ、見られる作品を意識させ造形の強さと作品の奥深さを学ぶ。		作品
	11月	造形遊び作品鑑賞会	・他者の作品を通じて新しい発見と次回の創作意欲を高める。		作品と感想文
	11月	課題研究 ①自己の研究テーマを出す。 ②材料・方法を具体化する。 ③材料収集 ④制作開始	・自己の感性を客観的に見させる。 ・イメージ力を高めさせ工夫する能力を育てさせる。 ・収集活動の中でイメージをより一層倍増させる。 ・自己の制作意欲と計画性を実現化させる。		計画書
	2月	⑤完成作品鑑賞会	・これまでの計画の困難さの中で学んだことを重点的に考察させ過程の大切さを学ぶ。		作品と感想文
評価の観点と方法 観点 ① 関心・意欲・態度を評価する。 ※出席状況や授業態度も含まれる。 ② 制作過程における工夫や努力を評価する。 ※自己の課題を発見し積極的に試みる ③ 鑑賞を通じて、自己の感性をいかに向上させているのかを評価する。 方法 ① 上にあげた観点を総合的に評価する。					
使用教科書・副読本		教科書 「高校美術3」日本文教出版		実習費	2,000円
教材・道具等 教科書と筆記用具等					

科目名・単位数	美術課題研究 (4)単位	学習レベル	応用
<p>学習目標</p> <p>① これまでの美術の授業体験を通して感じたことを一年を通して継続的な研究活動を行える資質を養う。</p> <p>② 研究方法を整理し、問題解決のための技能を養う。</p> <p>③ 自主性を重んじ、自由な創作活動から自己表現する力を養う。</p>			
学期	学習内容	学習のねらい	提出物
<p>前期 (4月～9月)</p>	<p>オリエンテーション</p> <p>美術課題研究のあり方</p> <p>美術課題研究の方法</p> <p>授業教室の使用方法について</p> <p>研究活動Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ</p> <p>鑑賞学習①</p> <p>中間報告会①</p> <p>研究活動Ⅳ・Ⅴ・Ⅵ</p> <p>中間報告会②</p> <p>研究成果中間発表会</p>	<p>自己紹介・年間授業説明</p> <p>「研究」のあり方や方法について説明をする。また、研究テーマの設定について考えさせる。</p> <p>美術課題研究ファイルを準備し、スケジュール表や日課まとめについて説明する。また、一日の反省や悩みをファイルを通じて行う。</p> <p>施設の使用方法和片付けなど自主管理を徹底させる。</p> <p>研究テーマに則り活動を開始する。 ・はじめと終わりのミーティングで諸注意を行う。</p> <p>鑑賞学習①</p> <p>生徒自身に報告をさせそれに対して指導し、学習活動の基本的な姿勢については特に注意する。また、問題解決のためのヒントを与える。</p> <p>中間報告会での問題解決方法を踏まえ研究を行う。</p> <p>段階的な成長があるか確認し、指示を与える。</p> <p>1学期の成果を発表・展示し、客観的な視野にたち、次回の展開をイメージさせる</p>	<p>テーマ</p> <p>ファイル作成</p> <p>ファイル</p> <p>ファイル</p> <p>ファイル 作品</p> <p>ファイル</p> <p>ファイル 作品</p> <p>作品展示</p>
<p>後期 (10月～2月)</p>	<p>一学期を振り返る。</p> <p>研究活動Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ</p> <p>鑑賞学習②</p> <p>中間報告会①</p> <p>研究活動Ⅳ・Ⅴ・Ⅵ</p> <p>美術概論</p> <p>中間報告会②</p> <p>研究活動Ⅶ・Ⅷ</p> <p>研究成果最終発表会</p> <p>展示会</p>	<p>1学期の反省を踏まえ、解決方法を具体化し後半の研究計画をたてる。</p> <p>自己の研究活動計画のとおり開始する。はじめと終わりのミーティングで諸注意を行う。</p> <p>ひとりの芸術家としてのプロ意識を芽生えさせる。</p> <p>生徒自身に報告をさせそれに対して指導する。 また、それぞれの進路に即した具体的な指導を行う。強化点を指示する。</p> <p>中間報告会での問題解決方法を踏まえ研究を行う。</p> <p>純粹美術の歴史的な見地に立って、発展してきた芸術の有り様を説明する。</p> <p>最終発表に向けた活動計画をしっかりと考えさせる。</p> <p>作品の完成度や研究のまとめとしての仕事の整理を行う。</p> <p>一年間のまとめとして、自己の研究テーマを発表させる。</p> <p>職員室前などを利用し、研究成果と作品発表を行う。見てもらうための手だてについても指導する。</p>	<p>ファイル点検</p> <p>ファイル</p> <p>ファイル 作品</p> <p>ファイル</p> <p>ファイル 作品</p> <p>ファイル</p> <p>ファイル 作品</p> <p>作品展示</p>
<p>評価の観点と方法</p> <p>① 関心・意欲・態度を評価する。自主的で積極的な活動を評価する。(出席状況や授業態度も含まれる。)</p> <p>② 制作過程における工夫や努力を評価する。</p> <p>③ 鑑賞を通じて、自己の感性をいかに向上させているのかを評価する。</p>			
使用教科書・副読本	画集・参考図書	実習費	自己負担
<p>教材・道具等・自己の研究テーマに沿って各自が準備する。</p>			

沖縄県立真和志高等学校シラバス		美術		コース クリエイティブアーツ							
科目名・単位数		美術史 (2)単位		学習レベル		標準					
学習目標											
① 文化遺産や美術文化についての理解を深め、伝統文化を尊重する心を養う。 ② さまざまな芸術作品に触れることで、新たな美術文化を創造する能力を高める。 ③ 美術の歴史や概説だけではなく、作品を自分なりに解釈し、さまざまな視点から作品鑑賞が出来る。											
学期	学習内容		学習のねらい			提出物					
前期 (4月～9月)	4月	【西洋美術史】	オリエンテーション	・これまでの人々が何をどのように表現しようとしたのかを考えることで、自己の表現との違い・共通点などを見出す。 ・美術の流れをとらえながら、作品の生まれた時代背景、作家の想いなどを理解する。 ・現代における美術のありかた、社会との関わりについて深く考える。 ・これまでの学習を踏まえながら、1つのテーマを取り上げ、多角的に調査、発表しながら学習する	1 ワークシート						
	5月		・美術のはじまり (原始の美術)			2 ワークシート					
	6月		・文明と美術 ・キリスト教と美術 ・ビザンチン、ロマネスク ゴシック ・ルネサンス ・バロック、ロココ				3 ワークシート				
	7月		・近代、現代の美術					4 ワークシート			
	9月		調べ学習						5 プレゼン資料		
後期 (10月～3月)	10月	【日本美術史】	・縄文、弥生、古墳時代の美術 ・飛鳥、奈良時代	・日本における美術史の流れを理解しながら、西洋の美術とはまた違った魅力を感じ取る。 ・仏教と美術の関わりについて学習する。 ・日本独特の美術が生まれた背景などを考えながら、絵巻物や大和絵のおもしろさを理解する。 ・庶民の生活を捉えた浮世絵など、美術と生活の関わりについて考えていく。 ・1つのテーマで調査し、発表しながら学び合う。	6 ワークシート						
	11月		・平安時代			7 ワークシート					
	12月		・鎌倉、室町、桃山時代				8 ワークシート				
	1月		・江戸時代の美術 ・近代、現代の美術					9 ワークシート			
	2月		調べ学習						# ワークシート		
	3月		まとめ							# プレゼン資料	
評価の観点と方法											
① 文化遺産や美術文化に関心をもって、質問・発言などを積極的に行っていたか。 ② 美術史の流れを理解し、作品が生まれた時代背景や作家の想いなどを捉えることが出来たか。 ③ 作品に対してさまざまな視点から考え、鑑賞することが出来たか。											
使用教科書・副読本			無し			実習費		無し			
教材・道具等プロジェクター・ワークシート等											

科目名・単位数		平面メディア表現Ⅱ(コース3年)		(4)単位	学習レベル	応用
学習目標 ① 平面デザインを中心に視覚的効果や伝達機能について理解を深める。 ② 多様な表現方法を通して、創造的で効果的な視覚伝達の表現や鑑賞の能力を高める。						
学期	学習内容		学習のねらい		提出物	
前期 (4月～9月)	4月	オリエンテーション	授業の心構え、年間計画について理解を深める。		作品 テーマ別作品 テーマ別作品 アイデアスケッチ	
	4月 5月	表現につなげる技法 鉛筆デッサン・クロッキー 色彩表現 (水彩絵の具・アクリル・ポスターカラー・等)	まんが、イラストを豊かな感情、感性に満ちたものにするための表現技法について理解する。			
	6月	イラストレーション ポスターに関するイラスト	テーマをもとにしたイラストの発想や能力を高める。			
	7月	絵本のためのイラスト 詩のためのイラスト	新しい表現材料を組合せた表現や複数の表現形式を試みる。			
	9月	フリーテーマ	イラストは、その目的、ねらいによって表現内容と技法などを明快適切に魅力的に効果的に又印象深く楽しく見せることを理解する。			
後期 (10月～3月)	10月	卒業制作 エスキース	・コース3年間の学習の集大成としての作品であることを理解させる。 ・作品のテーマ、構想を練り制作計画をたてる。		作品 ワークシート	
	11月	制作準備	・作品に必要な資料、画材を集め、パネルの制作を行う。		テーマ別作品 アイデアスケッチ	
	12月	中間発表	・作品の進捗状況確認と、テーマと技法が調和することの大切さについて学ばせる。			
	1月	制作終了 展示の準備	・作品製作の最終段階において全体の調和を図り、完成度を高める。 ・額装、キャプションなど展示会運営に向けた取組について学ばせる。			
	2月 3月	年間のまとめ	・作品展示発表			
評価の観点と方法 ① 豊かな感性に満ちた内容や表現方法、技法を工夫して表現する。 ② 感じたことや考えたことから発想し表現する。 ③ 美術への関心、意欲、態度、鑑賞の能力。 方法:実技課題の成績点、アイデアスケッチ等の提出物、学習態度、出席状況を総合的に評価する。						
使用教科書・副読本		イラスト・まんがの指導書			実習費	2,000 円
教材・道具等 絵の具類(ポスターカラー・水彩・アクリル等)、デザイン用具、まんが材料、各種紙類						